

若年層の性別役割意識チーム（仮）の活動について（案）

1. 趣旨

令和3年度及び令和4年度に内閣府が実施した『性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査』では、若年（20・30代）男性が職場項目に関して強い性別役割意識を有する結果¹が出ている。

また、「第16回出生動向基本調査」によると、理想とするライフコースが男女ともに「仕事と子育ての両立」が最多であるにもかかわらず、今後予想するライフコースが女性の場合は「非婚就業」が33.3%と、初めて結婚を選択肢に入れない女性が最多となった。これは、共働きを理想としつつ、婚姻が現実と考えない層が一定程度いることを示しており、背景の一つとして性別役割意識があると考えられる。

そこで、2023-2025期においては、既存の調査等を活用しながら、性別役割意識を生じさせる要因やその影響について検討・分析を行い、若年層の固定的な性別役割意識を解消するための方策を検討する。

2. 活動内容

先行調査や先行研究を基に、若年層に性別役割意識を生じさせる要因やその影響について仮説を立て、仮説を検証するために追加的に必要となるデータ等について検討を行い、連携会議構成団体や外部の主体等と連携しながら、若年層の性別役割意識に関するデータを充実させるための調査を実施する。調査結果を踏まえて若年層の固定的な性別役割意識を解消するために有効な方策を検討し、実証するとともに、好事例を収集し横展開を図る。なお、ここでいう若年層は、16歳～25歳程度の高校生から就職して2～3年程度までの層を想定する。

具体的には以下の手順で行う。

- ・先行研究・調査の分析、仮説の立案
- ・仮説の検証に必要なデータの特定・入手方法の検討
- ・連携会議構成団体等への働きかけ、調査の実施
- ・調査結果の検討・分析、結果の取りまとめ
- ・固定的な性別役割意識を解消するための方策の検討・実証
- ・固定的な性別役割意識を解消するための好事例収集・横展開

概ね1年間を想定

（以上）

¹ また同調査結果では、男性は女性と比べて、性別に基づく役割を直接言われた、あるいは言動や態度で間接的に接した（性別役割）「経験」は少なく、伝統的な役割観（性別役割意識）に自身がとらわれていることに気づいていない可能性が示されている。